

4-(1)-⑰ 産学官連携

本学は地元自治体(山形県・山形市)が学校法人と大学を新たに設置する「公設民営」方式により設立された大学であるという経緯もあり、芸術・デザイン系大学としては全国に先駆けて開学当初より積極的に地域や企業との連携に取り組んできています。

産学連携オフィスである「共創デザイン室」及び「文化財保存修復研究センター」など、学内の研究機関には年間100件を超える相談があり、約60件の受託研究に結びついています。芸術・デザインという教育研究の特色を生かし、東北地域になくてはならない大学としての存在感をますます高めています。

■ 共創デザイン室 (HP: <http://gs.tuad.ac.jp/kyoso/>)

産学官連携窓口となっている共創デザイン室は、産業界や地域の様々な課題に対して、複数の専門分野が連携して総合的な力で成果を生むプロジェクトも迅速に展開できるようになっており、東北復興支援機構やアートプロジェクトとともに社会貢献の一翼を担っています。

1 受託研究事業

産学連携を中心とした地域との連携に関する窓口として年間を通じて相談業務を実施しており、平成26年度の相談件数は107件、そのうち受託研究に結びついたものが37件、委託研究費の総額は約4,360万円。平成25年度と比較すると受託件数としては8件の増加となっています。

2 教育と産業界との橋渡し

デザイン工学部の教育方針である「産学連携、地域プロジェクトなどの積極的導入によるリアリティのある実践」を側面から支援。平成26年度は次のプロジェクトにおいて企業との覚書締結等側面支援を実施しています。

- ・ 株式会社JVCケンウッド・デザイン: ケンウッド製品に関するインタフェースのデザイン開発
- ・ 富士重工株式会社: 次世代アイサイトVer.3を搭載したパーソナルモビリティ
- ・ 株式会社日経BP: 伝統文化の新しいデザイン
- ・ 株式会社本間ゴルフ: レディース向け用品のデザイン開発
- ・ 株式会社エスパック: 玩具のデザイン開発
- ・ テクノクオーツ株式会社: 石英ガラスの端材を活用したデザイン開発

3 地域企業との交流活動

地域の産業と芸術・デザインとの橋渡しのため、企業や行政等関係機関とも積極的に連携しています。

平成24年10月に創設したデザイン相談ネットワーク「D-Link」(山形県、NPO法人山形県デザインネットワーク及び本学共創デザイン室)においては、月1回の定例会を開催し、各機関との情報交換を行い県内企業のデザインによる産業振興を目指しております。同年11月から12月にかけては、優れたデザインの県産製品を選定・顕彰する山形エクセレントデザイン受賞製品の展示をメインに、県内のデザイナー情報や東北芸術工科大学の産学連携プロジェクトの展示などを同時に行う「山形エクセレントデザイン展」をやまがた芸術学舎で開催し、子どもから大人まで多くの来場者を迎えました。

また、地域の産業とのより実践的な交流活動を目指し平成23年度にスタートした産学連携セミナー『共創のテーブル』の活動をより実践的内容に深化させ、平成25年には企業間共創による「食と生活」をテーマとした製品開発と地域産業のブランド「aGarey(アガレイ)」を立ち上げ、平成26年には同ブランドの「雪の結晶パスタ」がフード・アクション・ニッポン・アワードとグッドデザイン賞をダブル受賞しました。

平成25年度から始まった「山形県デザイン共創促進事業」は4年目を迎え、これまでに県内20社と連携し、さまざまなデザイン提案を行ってきました。その成果として、新製品の開発はもとより、毎年の卒業制作に対する企業からの支援、さらには卒業生の新たな就職先確保にも繋がっています。

ほかにも以下のような団体等にも積極的に参画することで地域の動向やニーズの把握、大学情報の発信等に努めています。

- ・ 株式会社山形銀行との包括連携協定に基づく地域支援活動
- ・ 東北ニュービジネス協議会
- ・ むらやまインダストリー倶楽部(事務局: 山形県村山総合支庁)
- ・ プラットフォームやまがた連絡協議会(事務局: 山形県企業振興公社)
- ・ 雪みらい推進機構(事務局: 山形県村山総合支庁)
- ・ 仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム(事務局: 仙台市経済局)

4 知的財産保護等への取り組み

学生や教員による創作に関する知的財産保護等への取り組みも重視しており、平成22年度からは、独立行政法人 工業所有権情報・研修館による「広域大学知的財産アドバイザー」事業に参画。連携大学との情報交換などを実施しながら知的財産保護等のための体制づくり及び諸規程の見直し等に取り組んでいます。